2026年11月13日

各　位

会 社 名　テモナ株式会社
代表者名　代表取締役社長　　本多　渉
（コード番号：3985　東証スタンダード）
問合せ先　執行役員CFO　　波多野　完治
（TEL. 03-6635-6452）

連結業績予想と実績値との差異、個別業績の前期実績値との差異及び特別損失の計上に関するお知らせ

2026年１月13日に公表した2026年９月期（2025年10月１日～2026年９月30日）の連結業績予想値と、本日公表の決算短信における実績値との間に差異が生じたこと、並びに、個別業績において前期実績との間に差異が生じました。併せて、2026年９月期において特別損失を計上しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．連結業績予想値と実績値の差異について

（１）2026年９月期連結業績予想数値と実績値の差異（2025年10月１日～2026年９月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	2,025	60	49	41	3.86
今回発表実績（B）	2,009	30	21	△34	△3.20
増 減 額（B－A）	△15	△29	△28	△75	
増 減 率（　％　）	△0.8	△49.4	△56.4	―	
（参考）前期実績（2025年９月期）	1,832	155	153	73	6.88

（２）差異の理由

売上高については、EC支援事業においてたまごリピートの不正アクセスに伴うシステム障害による減収影響が当初想定を上回ったことに加え、エンジニアリング事業におけるシステム開発の受託サービスの減少が主な減収要因となりました。一方で、フィンテック事業の「足場サブスク」において、初期投資を抑制しつつ足場を確保したいという旺盛な需要を受けて取引量が増加したほか、賃貸資産の売却案件が発生したこと等が増収要因となり、結果として当期末の売上高は前回発表予想比0.8%減の2,009百万円となりました。

利益面については、セキュリティ強化を優先とし、システム開発にかかる外注費をコントロールしたことで当初予想よりもコスト削減が進みました。一方で、「足場サブスク」の伸長に伴う減価償却費の増加等があり、結果として営業利益は前回発表比49.4%減の30百万円、経常利益は前回発表比56.4%減の21百万円となりました。また、後述の特別損失を計上したことから、親会社株主に帰属する当期純損失は34百万円（前回発表予想は41百万円の親会社株主に帰属する純利益）となりました。

２．個別業績と前期実績値との差異

（１）2026年９月期個別業績と前期実績値の差異（2025年10月１日～2026年９月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績（A）	1,411	123	125	85	7.99
今回発表実績（B）	1,161	△63	△45	△84	△7.88
増 減 額（B－A）	△250	△187	△171	△169	
増 減 率（ ％ ）	△17.8	―	―	―	

（２）差異の理由

売上高については、たまごリピートの不正アクセスに伴うシステム障害により、リカーリング収益・決済手数料収入が減少したことや、カスタマイズ案件の伸び悩みによる受託開発収益減少等が主な減収要因となりました。結果として2026年９月期個別業績の売上高は前期実績比17.8％減の1,161百万円となりました。

利益面については、本社及び福岡事務所の移転に伴う地代家賃や減価償却費の減少等のコスト削減もありましたが、上記売上高の減少による影響や、仕入販売取引の増加による原価増加等があり、結果として営業損失63百万円（前期実績は123百万円の営業利益）、経常損失45百万円（前期実績は125百万円の経常利益）となりました。また、後述の特別損失を計上したことから当期純損失は84百万円（前期実績は85百万円の当期純利益）となりました。

３．特別損失の計上

2025年10月24日に発生した第三者による不正アクセスに伴うシステム障害への対応として、第４四半期連結会計期間にシステム障害対応費用32,599千円を特別損失に計上いたしました。これにより、当連結会計年度での計上額は98,052千円となりました。主な内訳は、外部専門機関に対する調査費用やシステム復旧作業等に係る費用であります。

以上